

GIDWR 岐阜県感染症発生動向調査週報

2014 年第 51 週
(12/15~12/21)

Gifu Infectious Diseases Weekly Report 岐阜県感染症情報センター (岐阜県保健環境研究所)

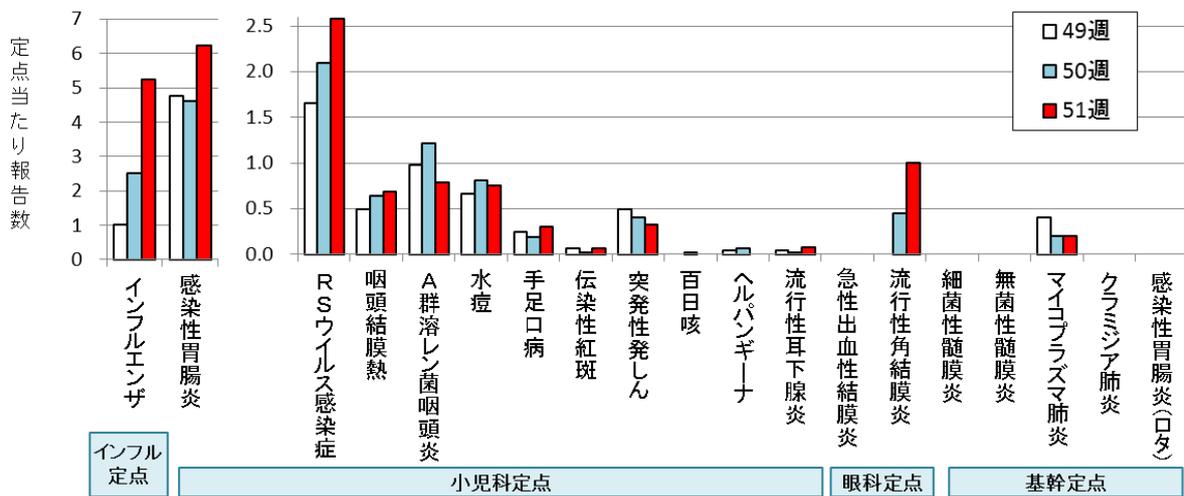
- ◇ インフルエンザが増加しています。→トピックス
- ◇ R S ウイルス感染症の患者報告数が過去最多となっています。→トピックス
- ◇ 感染性胃腸炎、咽頭結膜熱が増加傾向です。

■ 定点把握対象疾患 (インフルエンザ 定点:87 か所、小児科定点:53 か所、眼科定点:11 か所、基幹定点:5 か所)

● 警報・注意報レベルの保健所がある疾患

	疾患名	保健所 (定点当たり報告数)
警報レベル	なし	—
注意報レベル	インフルエンザ	東濃保健所 (11.63)

● 直近 3 週の比較



■ 全数把握対象疾患

● 今週届出分

- 1 類感染症：なし
- 2 類感染症：結核 8 例
- 3 類感染症：細菌性赤痢 1 例、腸管出血性大腸菌感染症 1 例 (O121)
- 4 類感染症：A 型肝炎 1 例、つつが虫病 1 例、デング熱 1 例 (感染地域：タイ)、レジオネラ症 1 例
- 5 類感染症：アメーバ赤痢 2 例

● 2014 年累計

1 類感染症	なし		
2 類感染症	結核	427 例	
3 類感染症	細菌性赤痢	3 例	腸管出血性大腸菌感染症 37 例
4 類感染症	E 型肝炎	3 例	デング熱 7 例
	A 型肝炎	2 例	マラリア 1 例
	チクングニア熱	1 例	レジオネラ症 20 例
	つつが虫病	9 例	
	5 類感染症	アメーバ赤痢	17 例
	急性脳炎	1 例	水痘 (入院例) 4 例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 例	梅毒 11 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4 例	破傷風 1 例
	後天性免疫不全症候群	20 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 例
	ジアルジア症	1 例	風しん 2 例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	5 例	麻しん 3 例

全国情報は国立感染症研究所感染症疫学センターの HP をご覧ください。

感染症発生動向調査週報 (IDWR) <http://www.nih.go.jp/niid/ja/idwr.html>

■トピックス

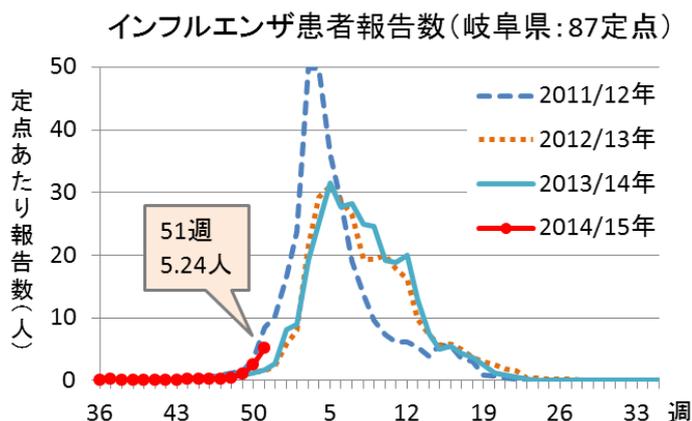
《インフルエンザ》

◆ 県全域で患者が増加しています！

県内 87 のインフルエンザ定点医療機関からの第 51 週のインフルエンザ患者報告数は 456 人（定点当たり 5.24 人）と前週（定点当たり 2.52 人）の 2 倍以上に増加しています。

すべての保健所管内で患者数の増加がみられており、東濃保健所管内で定点当たり 11.63 人と特に高い値となっています。

今後、本格的な流行に入ることが予想され、インフルエンザの予防対策が特に重要になっています。



保健所別インフルエンザ患者報告数

() 内は定点あたり報告数

保健所	49週	50週	51週
岐阜市	13 (0.93)	27 (1.93)	67 (4.79)
岐阜	9 (0.53)	17 (1.00)	55 (3.24)
西濃	12 (0.80)	51 (3.40)	94 (6.27)
関	6 (0.75)	7 (0.88)	18 (2.25)
中濃	8 (1.00)	11 (1.38)	49 (6.13)
東濃	23 (2.88)	80 (10.00)	93 (11.63)
恵那	9 (1.29)	16 (2.29)	24 (3.43)
飛騨	8 (0.80)	10 (1.00)	56 (5.60)
岐阜県	88 (1.01)	219 (2.52)	456 (5.24)

インフルエンザにかからないようにするには

- ・帰宅時や食事前には手洗い・うがいを行う（アルコール製剤による手指消毒も有効）
- ・出かける場合にはなるべく人ごみを避ける
- ・十分な睡眠・栄養摂取を心がける
- ・室内を適切な温度や湿度に保つ

インフルエンザを広めないようにするには

- ・発熱や咳の症状がある場合は、早めに医療機関を受診する
- ・インフルエンザと診断されたら、安静にして休養をとり、無理をして学校や職場に行かない
- ・咳エチケットを守る

ハイリスク者の方へ

高齢者、妊婦、乳幼児、心肺系の慢性疾患・糖尿病・腎疾患等の基礎疾患のある方は感染すると症状が重くなることがあるため、早めに医療機関を受診してください。

★ 関係リンク

○保健医療課 HP（インフルエンザ予防対策）

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kenko-fukushi/yaku-eisei-kansen/kansensho/shingata-infuru/yobo.html>

○岐阜県リアルタイム感染症サーベイランス

<http://infect.gifu.med.or.jp/influ/influcondition>

★ 感染症法における取扱い

インフルエンザは、感染症法において 5 類感染症定点把握対象疾患に定められており、全国約 4,900 か所（岐阜県 87 か所）のインフルエンザ定点から毎週報告がなされています。届出基準・届出様式はこちらをご覧ください。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kenko-fukushi/yaku-eisei-kansen/kansensho/hasseidoko/kansenshouh-ou-kijun.html>（保健医療課 HP）

《RSウイルス感染症》

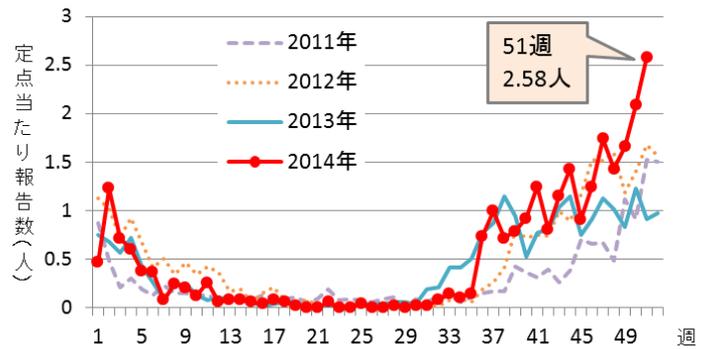
◆ 過去最多の報告数となっています

県内53の小児科定点医療機関からの第51週のRSウイルス感染症患者報告数は137人(定点当たり2.58人)と、調査が始まった2003年以降最多の報告数となっています。

今年は9月以降患者報告数が増加し、これまで高いレベルで推移してきましたが、ここ2週でさらに増加しています。

患者の年齢は、約半数が1歳未満となっています。

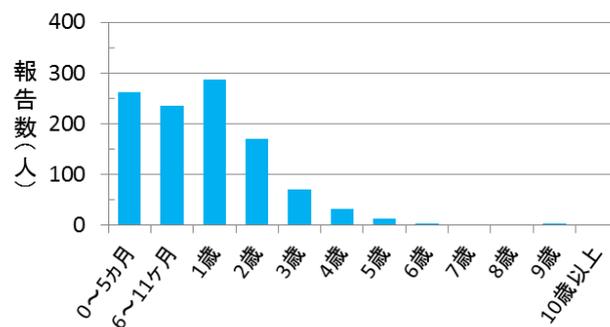
RSウイルス感染症患者報告数
(岐阜県:53定点)



◆ 生後数ヵ月以内の乳児や基礎疾患のあるお子さんは特に注意が必要な疾患です

RSウイルス感染症の症状は軽いかぜ症状から重い肺炎まで様々ですが、特に乳児期早期(生後数週間～数ヵ月)に初感染すると、肺炎など重篤な症状を引き起こす場合があります。また、早産児や低出生体重児、心肺系の基礎疾患や免疫不全などのある2歳未満の小児は重症化のリスクが高く、感染に注意が必要です。

RSウイルス感染症 年齢別患者報告数
(岐阜県:53定点 2014年35～51週 n=1,085)



◆ 乳幼児のいる家庭や施設では感染予防を

RSウイルス感染症の主な感染経路は飛沫感染や接触感染です。年長児や成人がRSウイルスに再感染した場合は症状が軽いため、RSウイルス感染症と気づかずに乳幼児への感染源となることがあります。

咳などの呼吸器症状がある年長児や成人は、可能な限り乳幼児(特に0歳児、1歳児)との接触を避けることが乳幼児の発症予防には重要です。また、日常的に乳幼児と接する人は、流行期に限らずマスクを着用して接することで感染予防につながります。

接触感染対策としては、手洗いを徹底し、乳幼児が触ったり口に入れたりする可能性のあるもの(おもちゃや手すりなど)をアルコールや塩素系消毒薬などでこまめに消毒することが有効です。

感染症法における取扱い

RSウイルス感染症は、感染症法において5類感染症定点把握対象疾患に定められており、全国約3,100か所(岐阜県53か所)の小児科定点から毎週報告がなされています。届出基準・届出様式はこちらをご覧ください。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kenko-fukushi/yaku-eisei-kansen/kansensho/hasseidoko/kansenshouh-ou-kijun.html> (保健医療課 HP)

岐阜県感染症情報センターHP

<http://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/kenko-fukushi/hokekan/kansensyo/>